

新報

島根県教育庁
隠岐教育事務所
隠岐の島町港町塩口24
電話2-9772

学校教育を振り返って

本年度も各学校におかれましては、大変お忙しい中、学校訪問等ご理解とご協力をいただきありがとうございます。10月には、西郷南中学校区の小中学校において「第4回中国・四国地区へき地教育研究大会」「第55回島根県教育研究大会」が開催されました。該当する小中学校では、大会へ向けて研究授業等を行い学校全体で授業実践に取り組んでいただきました。また、研究授業等では、研究発表校だけでなく、隠岐教育研究会の各部会会員の積極的な協力、レセプションでは、学校を超えた隠岐全体での協力体制のもとでもおてなしを行い、参加者の皆様には大変心に残る大会となりました。さて、第2期しまね教育ビジョン21では、「向かって

いく学力」(夢や希望に向かつて主体的に学ぼうとする人の育成)を目標に据え、「学ぶ力・学んだ力」「情報活用力」「意欲・たくましさ」を養うことを重点目標としていきます。そして、「しまねの学力育成推進プラン」を策定し、授業の質の向上、家庭学習の充実、学校マネジメントの強化を三つの柱とし、それぞれ具体的な取組を実施していきます。今年度は、授業改善に向けた様々な研修が実施され、各学校とも教員一人一人の授業力向上と子供たちの学力育成をめざした実践が行われていました。特に学習課題の提示、学習の見通しと振り返りについて共通理解のもと授業実践に取り組まれていました。また、授業を通して、一人一人の子供の学びが大切にされていること、子供たちがお互いに何でも言える雰囲気

第2号 平成27年2月24日(火)

教育情報紙

発行：島根県教育委員会
(教育指導課)
TEL：0862-22-5421
Mail：shidou@pref.shimane.lg.jp

※第2期しまね教育ビジョン21のp27~28をお開きください。

しまねの学力育成推進プランの3つの柱

1. ビジョンで示す施策とプランの3つの柱

しまねの学力育成推進プラン(以下「プラン」という。)は、学校での指導や授業の充実に向けて、第2期しまね教育ビジョン21(以下「第2期ビジョン」という。)で示す施策「学力の育成」等を具体的に推進するため策定したものです。プランの期間は第2期ビジョンに合わせて平成26年度~30年度の5カ年です。特に今年度と来年度は集中実施期間として、プランに掲げる施策を強力に推進します。

プランでは3つの柱に沿って、取り組むべき具体的な方策を記述しています。ビジョンで示す施策との関係は次のとおりです。



≡教育情報紙(第2号)より抜粋≡

の割合が高いこと、侵害行為群の割合が低いなど好ましい傾向にあります。学習規律の定着、認め合う場づくり、教育相談等、「積極的な生徒指導」が行われ成果をあげています。反面、承認感を育むことに課題が見られます。わかる授業づくり、多面的な評価、多くの児童生徒が主体的に取り組む場の設定等、指導の充実が求められます。

不登校及び不登校傾向の児童生徒については、小学校が減少、中学校は横ばい傾向にあります。不登校生徒については、小学校時代から休みがち傾向があることから、小学校の欠席数を把握するなど積極的な対応が必要です。長期化した不登校への対応等、苦慮することも多いと思われるが、学校は、児童生徒の生活から家庭まで全包括的に捉えることができる位置にある長所を生かし、理想の自己へと後押しする取り組みをお願いしたいと思えます。は、小学校、中学校とも減少

づくりがされていること、教員と子供、そして、子供同士がよりよい関係で結ばれた中で授業が展開されていることを感じる事ができました。来年度も引き続き児童生徒の学力育成に向けて学習指導の一層の充実を図っていただきますようよろしくお願い申し上げます。

学校訪問の実施にあたっては、日程等で無理なお願いをしましたが、温かく迎えていただきましたことお礼申し上げます。



生徒指導の状況

各校で児童生徒の実態や課題についての情報交換が積極的に行われ、きめ細やかな指導がなされました。アンケートQの結果から、満足群

ネット関係の問題行動は、隠岐管内の喫緊の課題であり、学校の危機意識も高まっています。県教委の調査では多機能携帯電話(スマートフォン)等の所持率が管内の中学生53%、3人に1人が平日2時間以上使用しているという結果が得られています。情報モラル教室に限らず、保護者と共に考える参観日、メールマガジンの活用等、温かな人間関係づくりを基盤にしながら、予防に向けた計画的・定期的・継続的な指導、啓発が求められます。



(文責 熊本)